

せつこっこクラブ 8月  
「おおきなたまごに絵をかこう！」  
開催結果報告

日 時：令和2年8月1日(土)、2日(日) 午後2時～4時

参加人数：1日(土) 14名(年少1名、年中4名、年長3名、小学2年生3名、  
4年生1名、5年生2名)

2日(日) 13名(年少4名、年中2名、小学2年生2名、3年生3名、  
5年生2名)

参加費：500円(材料費)

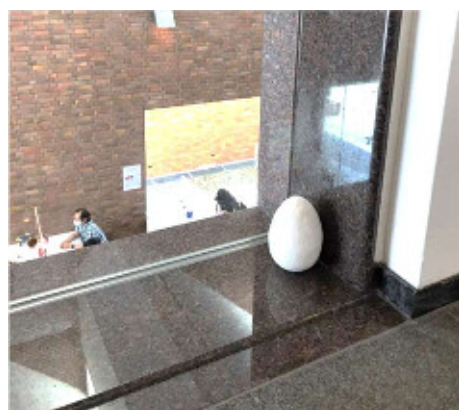
職員：長岡、名和

「せつこっこクラブ」は子どもたちに三岸節子作品や芸術に親んでもらうため、毎月1回を目安に開催しているワークショップです。今回の企画はイースターの時期(4月)に開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため8月に延期となったものです。

日本でもだんだん定着しつつある、イースターの行事。札幌育ちの三岸好太郎は西洋文化・キリスト教文化に造詣があり、すでに1930年頃に卵に模様を描いて子どもたちを楽しませていたというエピソードが残っています。

今回はニワトリの卵ではなく、ダチョウの卵と同じ大きさの、石粉(せきふん)粘土でできた立体を用意しました。はじめにイースターの定番の遊び「エッグハント」をイメージし、ロビーに隠しておいた卵をみんなで探しました。各自卵を見つけたらサンドペーパーでやさしく磨き、いよいよ彩色スタートです。

まずはベースとなる色を決めて、全体にムラなく塗っていきます。今回使った画材はアクリルガッシュ。水彩のように水でのぼすことができ、乾くときれいに重ね塗りすることもできます。



ベースを塗ったあとは乾燥の時間を利用して、常設展示室に移動し三岸節子作品を鑑賞しました。展示作品の中から自分が塗ったベースの色と同じ色が使われている作品を探し、色彩画家(カラリスト)と称賛された節子さんがどんな色を組み合わせているか、じっくりと観察しました。

ワークショップ会場に戻ったら、次に模様を重ね塗りしていきます。節子さんの色づかいを参考にしながら、思い思いの模様やイラストを描き込んでいきました。ふだんの平面の画用紙



と違い、楕円形の立体に描くという、ほとんどの参加者にとっては初めての体験でしたが、みな楽しみながら自由にのびのびと描いていたのが印象的でした。



できあがったら紙ボウルにペーパークッションを敷きつめて、鳥の巣のように卵を載せてお持ち帰り。まるでファンタジーの世界の卵のような、わくわくする作品ばかりができました。



今後も当館では小さなお子さんでも気軽に楽しく芸術に触れられ、かつ子どもたちの自由な発想を刺激するような企画を実施していきたいと思います。

(学芸員 長岡)